

地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
2021年度全分科会実施計画書（概要）52件

2021年10月12日

2021年度分科会（2020年度からの継続）

番号	提案者名	テーマ	SDGs 17ゴール	掲載ページ
継01	一般社団法人 社会デザイン協会	地域人材育成のための分科会		4
継02	神奈川県	SDGs 社会的投資促進分科会		5
継03	一般財団法人日本品質保証機構	地方を元気にするSDGs登録・認証制度分科会		6
継04	内閣府	企業版ふるさと納税分科会		7
継05	株式会社DeNA川崎ブレイブサンダース	プロスポーツを活用したSDGs推進のための検討		8
継06	一般社団法人 PMI日本支部	SDGsスタートアップ研究～アジャイル・アプローチ～		9
継07	青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社（青学Hicon・代表） 株式会社ソフィアコミュニケーションズ	SDGs & ESG & CSVビジネスモデルと人材育成		10
継08	株式会社スタイルエージェント	ファッショニで考える持続可能目標と認証ブランドへの取り組み		11
継09	The Sempo Project LLC	日本人偉人資産を活用した、国内外富裕層の消費喚起による地方創生SDGsの積極的推進		12
継10	一般社団法人日本技術者連盟	ALLジャパンものづくりインターネットEXPO		13
継11	一般社団法人日本技術者連盟	動画サイトを活用して、企業のSDGs活動の可視化とプロモーション効果の最大化		14
継12	株式会社エイアンドピープル	SDGsゴール達成へ。世界標準ISO伝達術『ブレイン・ジャパンーズ』		15
継13	一般社団法人未来投資研究所	SDGsのためのフードスタディース研究会 「Food Studies for SDGs research Institute 略称：FSRI」		16
継14	北九州市、壱岐市、熊本県小国町	ALL九州SDGsネットワーク		17
継15	東京理科大学イノベーション・キャピタル株式会社	SDGs産学官民事業創生・地方創生・教育創生連携ネットワーク		18
継16	株式会社駅探	スマートフォンを活用した観光型MaaSに関する勉強会		19
継17	株式会社JTB、株式会社JTB総合研究所	『観光を通じた地方創生のSDGs達成貢献』に関する勉強会		20
継18	おはようトラベル株式会社（ユニバーサルツーリズムセンターむさしの）	高齢者・障がい者の旅行の環境整備宣言によるユニバーサルツーリズムの推進と地域振興		21
継19	一般社団法人 日本経営士会（AMCI）	中小企業・サプライチェーンにSDGs・CSR・環境経営の普及および宣言・登録・認証制度のパイロット運用		22
継20	NPO法人ユニグラウンド・一般社団法人みらい紀行・株式会社九州ごころ	DMOとの連携による日本観光立国実現に向けた分科会		23

2021年度分科会（2020年度からの継続）

番号	提案者名	テーマ	SDGs 17ゴール	掲載ページ
継21	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)	地域産学官社会連携		24
継22	一般社団法人 日本医食促進協会	メディシェフ（医学とおいしさの技術）教育を活用した、健康になる食文化の推進について		25
継23	NGO ILFA	災害時に活用できる一元化したプラットフォームの作成とその普及広報活動		26
継24	モバイルソリューション株式会社	地方創生の為の地域エネルギービジネスの創出		27
継25	モバイルソリューション株式会社	海外自治体との連携及び海外人材の活用による地方創生の実現		28
継26	翔飛工業株式会社	廃棄物削減と持続可能なりサイクル化について検討		29
継27	国立大学法人 長崎大学	島嶼SDGs～「住み続けたい」を支えるため、島における社会・環境・経済の調和した自立的発展のための取り組み		30
継28	一般社団法人 日本経営土会 (AMCJ)	SDGsをベースとした非財務的要素による中小企業与信評価およびSDGs推進（含む宣言・登録・認証制度）について		31
継29	一般社団法人 地域社会活性化支援機構	健康まちづくり分科会		32
継30	スマートワーク株式会社	デジタルワークファクトリー推進プロジェクト		33
継31	内閣府地方創生推進事務局	自治体向け地方創生SDGsオンライン相談分科会		34
継32	公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)	「自発的自治体レビュー」(Voluntary Local/Regional Review) 研究会		35
継33	一般財団法人電気安全環境研究所	安全（製品安全・消費者安全）とSDGs		36
継34	代表団体社名：国際航業株式会社 メンバー団体名：ESRIジャパン株式会社	日本版SDGsの指標ならびにGISを活用した可視化検討		37

2021年度分科会（2021年度新規立ち上げ）

番号	提案者名	テーマ	SDGs 17ゴール	掲載ページ
新01	東京理科大学インベストメント・マネジメント株式会社	地域資源および再生可能エネルギーを活用した地方創生事業の推進とベンチャーエコシステムの構築		38
新02	一般社団法人パートナーシップ協会	企業内のジェンダー問題の可視化と解決		39
新03	公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル	大規模災害時の救急艇の必要性の訴求と防災意識醸成に向けた「ハザード教育」の開催		40
新04	一般社団法人サステイナビリティ人材開発機構	地方創生を実現するサステイナビリティ人材採用プラットフォーム		41
新05	一般社団法人在宅栄養ケア推進基金	SDGsに資する高齢者の低栄養予防事業		43
新06	株式会社ラック	地域課題解決分科会		44
新07	株式会社プロレド・パートナーズ	SIB・PFS（成果連動型民間委託契約方式）活用分科会		45
新08	株式会社COクリエイト	SDGs官民連携ビジネスモデルの構築と課題解決プロトタイプ実証実験の実施		46
新09	株式会社ヌールエ デザイン総合研究所	動物との対話をとおして持続可能な社会の担い手を育成		47
新10	国際連合地域開発センター・大日本コンサルタンクト株式会社	地方自治体におけるSDGsモニタリング研究会		48
新11	株式会社文化資本創研	『SDGs』×『文化』～京都文化から学ぶサステイナビリティのカギ～		49
新12	株式会社文化資本創研	日本のスマートシティを考える		50
新13	一般社団法人未来投資研究所	官民連携によるジビエ振興の推進		51
新14	MAYUGO.com株式会社	中小企業家SDGsサミット		52
新15	一般社団法人日本未病総合研究所	第三の心身状態「未病」に鋭くなり、実践して日本型SDGsをめざす。		53
新16	セールスレップ・販路コーディネータ協同組合	地方自治体の「コトづくり・モノづくり・場おこし」による地方活性化・雇用創出		54
新17	有限会社ダブル・ワークス	大学生と考える「消費者市民社会の実現に向けて私たちは何ができるか？」		55
新18	株式会社SDGsテック	Future Lab.「誰一人取り残されない社会」実現のためのテクノロジー研究会		56

地域人材育成のための分科会

2021年度

分科会提案者：一般社団法人 社会デザイン協会

継01

分科会の目的	持続可能な地域づくり、社会づくりをするための、基礎的学問体系の構築、及びその学問を基盤とした人材の創出
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な地域づくり、社会づくりにおいて、個々人の経験によるものではなく普遍的な形としてまとめる。・まとめられた普遍的な学術的形を応用することで地域づくり人材を育成する。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：各地でSDGsスクールを開催し、知見の教授と社会的課題への対応を行う場の提供を行う。

（年度内月1回ずつ予定）

活動②：WEB誌の発行。

（年度内隔月発行予定）

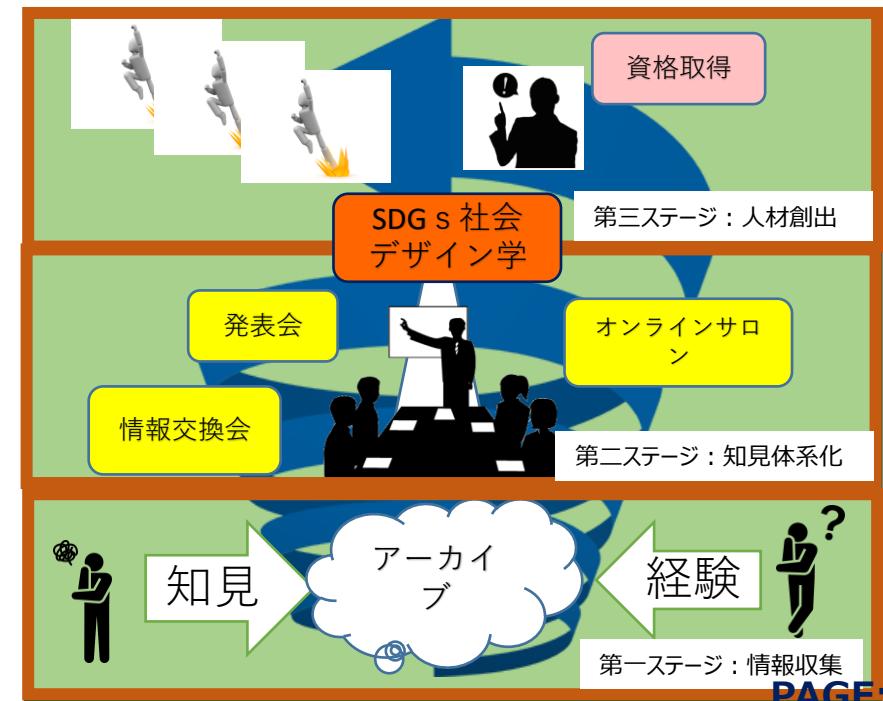
活動③：資格の創生、発行。

（年度内4回予定）

成果

- ・持続可能な地域づくりを行うための知見の集約（サロンによる情報アーカイブ、Web誌への集約）
- ・持続可能な地域づくりを実践する人材の創出。（資格発行）

関連するゴール



分科会の目的	SDGs推進に向けて、企業、行政、アカデミア、市民社会の連携を図り、社会的投資を呼び込むモデルを構築する。
解決したい課題	・社会的投資を呼び込むモデル・仕組みの構築と展開 ・地域主導のSDGs課題解決のための継続的な取組

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：分科会の開催

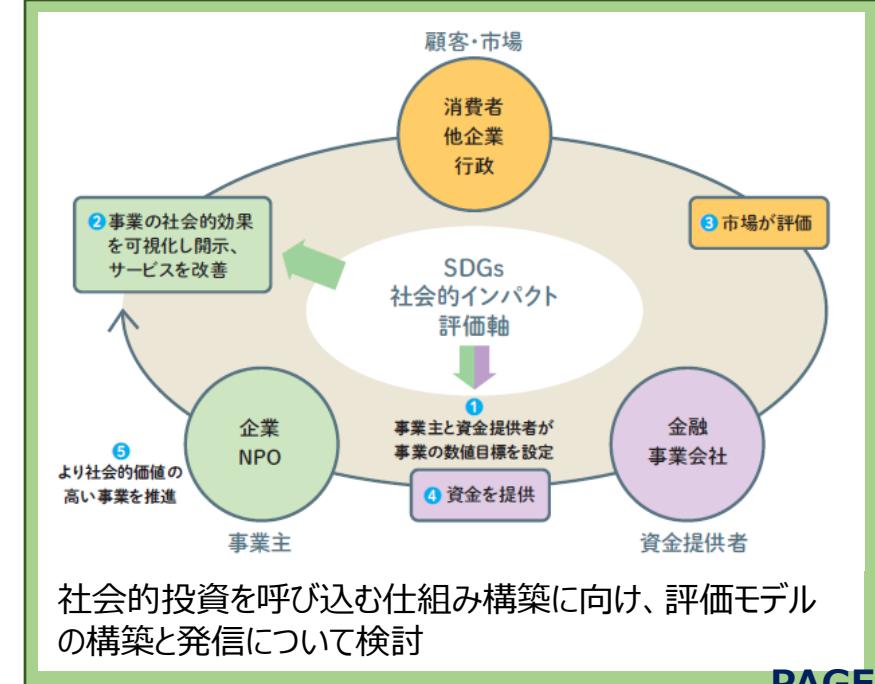
社会的投資の促進に向け議論するとともに、異業種間交流を図る（年度内2回予定）

活動②：社会的投資の普及啓発、情報発信（セミナー、シンポジウム、イベント開催） (年度内数回程度予定)

成果

- ・社会的投資を呼び込むモデル構築と発信
- ・「SDGs日本モデル」の実践と発信

関連するゴール



分科会の目的	地域の企業活動を応援するためのSDGs登録・認証制度について、優良事例の共有や課題解決策の検討を行い、地域ごとの効果的な制度創設を目指す
解決したい課題	登録・認証制度について情報共有し、持続的なSDGsの取り組みの実現のための知恵を出し合う場の提供

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：既存制度の取り組みや課題についての情報共有（年度内1～3回予定）

活動②：金融機関の取り組みや課題についての情報共有と、登録・認証制度での活用可能性の検討（年度内1～2回予定）

活動③：地方をさらに元氣にするための制度のあり方検討（地方創生SDGs金融調査・研究会のガイドライン検討を含む）（年度内1～2回予定）

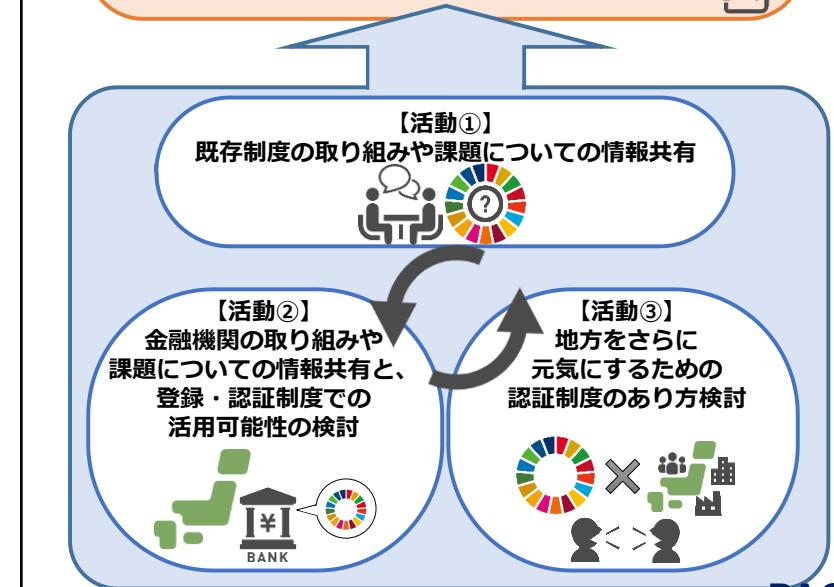
成果

地方をさらに元氣にするための制度（フレームワーク）案を取りまとめる

関連するゴール



地方を元氣にするSDGs登録・認証制度 (地域・目的別効果的な制度)



企業版ふるさと納税分科会

分科会提案者：内閣府

2021年度

継04

分科会の目的	地方公共団体が実施するSDGs関連事業において企業版ふるさと納税を活用し、企業と地方公共団体がwin-winの関係を構築するために必要な取組について推進する
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">SDGs関連事業に取り組む企業が企業版ふるさと納税を活用するメリットの周知SDGs関連事業を通じた地方公共団体と企業とのマッチングの方策SDGs関連事業の推進にあたっての企業版ふるさと納税の活用方法

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：セミナー

企業版ふるさと納税の制度や企業版ふるさと納税を活用したSDGs関連事業などを幅広く紹介し、意見交換を行う
(年度内6回予定)

活動②：企業と地方公共団体によるプレゼンテーション

企業版ふるさと納税を活用し、SDGsの取組を推進する企業と地方公共団体によるプレゼンテーションを実施
(年度内6回予定)

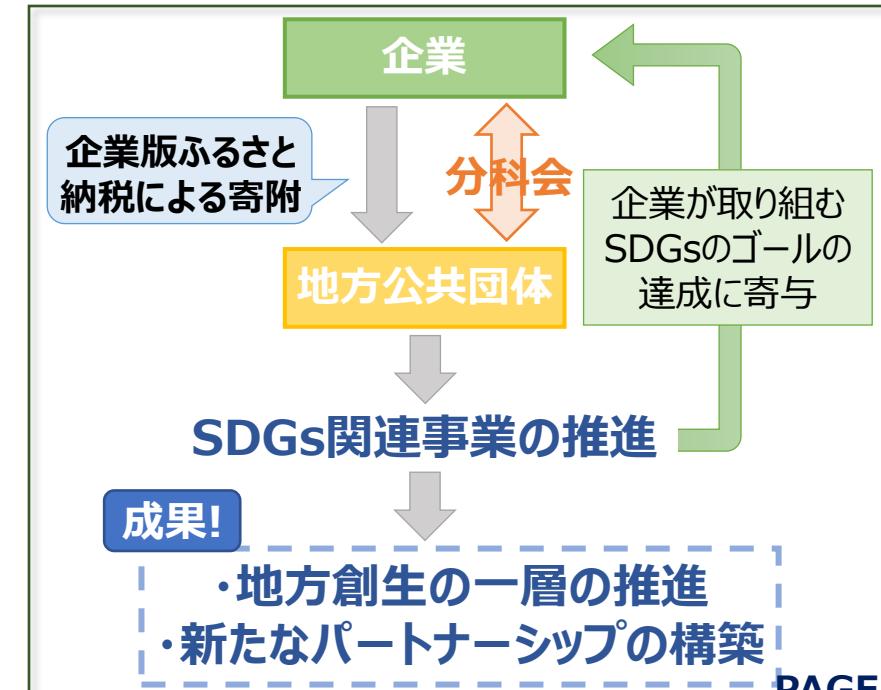
活動③：マッチング会

地方公共団体と企業との意見交換を実施し、参加者同士の交流を図る
(年度内6回予定) ※活動①②③は同時開催



- ・地方創生の一層の推進
- ・地方公共団体と企業との新たなパートナーシップの構築

関連するゴール



分科会の目的	プロスポーツクラブ×SDGsの先進事例を創出し、成功事例失敗事例とともに全国に共有することで、SDGsの推進を促すこと。そのための情報共有や検討。
解決したい課題	・少なくとも日本においてプロスポーツクラブ×SDGsの成功事例がまだ少ない ・多くのファンを持つプロスポーツクラブが、SDGs推進の役割を担えていない

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：スポーツクラブである会員やスポーツに興味のある会員を集めて意見交換会
(年度内3回予定 ※1年間の前提)

活動②：当社(プロバスケ)のホーム試合を活用した具体的なSDGs施策を考えるワークショップ実施 (年度内 1回予定 ※同上)

活動③：②の施策を当社ホーム試合などで実践し成果を効果検証する
(年度内 1回予定 ※同上)

成果

- ・活動実績の報告書作成
- ・活動実績の成果報告会や共有会の開催

関連するゴール



活動概要（事例）

①バスケの試合で行うSDGs施策を検討



- 例) 試合会場のゴミを減らす施策
- 例) 試合会場のフードロス削減の施策
- 例) 障がい者が快適に観戦できる施策

②試合で実践する



③効果検証と要因分析を行い、対外的に発表する(事例共有)



分科会の目的	SDGs達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発及び普及を行う。
解決したい課題	SDGsへの取組みを始めても、効果的な推進ができない状況を改善するために、SDGsプロジェクトマネジメント手法を確立し活用すること。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：SDGsスタートアップ研究（ベーシックコース） (年度内3回予定)

SDGsスタートアップ方法論を研修・ワークショップで体得する。

活動②：SDGsスタートアップ研究（アドバンスコース） (年度内4回予定)

昨年度までの活動①修了団体を対象に、実際に事業として行っているプロジェクトをPMI日本支部がPM支援

活動③：SDGsスタートアップセミナー (年度内1回予定)

成果

- ・SDGsプロセスモデル集 2021年度版
- ・SDGsスタートアップ手法 2021年度版
- ・SDGs達成のためのプロセス習得イベント

関連するゴール



分科会での活動概要

(1) SDGs達成プロセスの課題の把握（活動①②）



(2) 課題解決に適した手法の研究（活動①②）



(3) 適切なプロセスモデルによる解決手法の習得（活動③）



分科会提案者：青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング株式会社(青学Hicon・代表)
株式会社ソフィアコミュニケーションズ

2021年度

分科会の目的	1. SDGs & ESG & CSVを融合した「SDGsアカデミア」の事業化と普及、 2. ビジネスを通じた地域課題解決に向けた「ソーシャルインキュベーションラボ」 3. 産学官金・分科会連携による「社会実装事業化」
解決したい課題	・SDGsの推進リーダーを育成し、産学官金・分科会連携により、社会実装事業化を実現して、社会課題の解決：SDGs目標の4・8・9・11・12・17

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動1 SDGs & ESG & CSVを融合した「SDGsアカデミア」事業化

- 1.1 SDGs教育プログラム
- 1.2 学習環境「ハイブリッド型学習プラットフォーム」

活動2 地域課題解決「ソーシャルインキュベーションラボ」の設置

- 2.1 都市部の大学生のフィールドラーニングの拠点
- 2.2 都市部の企業をターゲットにした企業誘致
- 2.3 地域住民との連携による地域情報の可視化

活動3 産学官金・研究所連携による「社会実装事業化」

- 3.1 分科会の開催／研究所連携によるシンポジウムの共催
- 3.2 産学官金連携による社会実装事業化

成果

活動1. 企業／自治体における「SDGs推進リーダー」の人材育成

活動2. 都市と地域を結ぶ「SDGs地方創生」、相互連携による「新産業クラスター」の形成

活動3. 「社会実装事業化」と地域内・地域間のミュニティ形成

関連するゴール



活動1 SDG & ESG & CSVを融合した「SDGsアカデミア」事業化

- 1.1 SDGs教育プログラムの開発と普及
 - ①SDGs【ベーシックコース】【ケーススタディコース】
 - ②SDGs【経営マネジメントプログラム】
 - ③SDGs【体験型グループワーク演習】、その他
- 1.2 学習環境「ハイブリッド型学習プラットフォーム」の開発と普及

活動2 地域課題解決「ソーシャルインキュベーションラボ」の設置

- 2.1 都市部の大学生のフィールドラーニングの拠点
 - 〈学生による地域課題の抽出〉
- 2.2 都市部の企業をターゲットにした企業誘致
 - 〈企業連携による地域課題の解決〉
- 2.3 地域住民との連携による地域情報の可視化
 - 〈オウンドメディアを活用した情報発信〉

活動3 産学官金・研究所連携による「社会実装事業化」

- 3.1 本分科会の企画・開催／研究所連携によるシンポジウムの共催
 - 青山学院大学「SDGs 人材開発パートナーシップ研究所」
- 3.2 産学官金連携による社会実装事業化

分科会の目的	日本の文化継承を守ることで、持続可能な生活様式を地域企業と共に創して、様々な地方における課題克服をファッショング軸にオンラインプラットフォームを創る
解決したい課題	地域の特性（伝統工芸や地場産品）を活かした、商品開発の協業をおこない、地域での経済成長と技術革新の基盤を新たな価値観へ変換を目指す。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：各事業における産業現状の課題と方向性を検証し、データ調査と整理
(年度内1～2回予定)

活動②：選定事業における具体的なワークショップでの意見交換と事業計画を作成
(年度内1～2回予定)

活動③：オンライン展示会の開催とプロモーション活動の実施
(年度内1～2回予定)

成果

・プロモーション活動として、百貨店やECサイトでの販売会やイベントなどを開催する

関連するゴール



指標の可視化までのステップ

①現状の課題を把握



現状の課題と活用できる事業においてデータにまとめる

②指標との整合性



SDGsの指標と事業内容を検証して目標を定めます

③プロモーション活動



シティプロモーションとして、催事や複合イベントを開催

日本人偉人資産を活用した国内外富裕層の消費喚起による 地方創生SDGsの積極的推進

2021年度

分科会提案者：The Sempo Project LLC

継09

分科会の目的	世界で著名だが日本において相対的に著名でない日本人をSuper Japaneseと総称し、彼らの出身地などをベースにした国内外富裕層消費喚起の取り組み事例を共有することで、交流人口増加などの各自治体の地方創生およびSDGs活動に役立てるあり方を検討する
解決したい課題	Super Japaneseの定義づけ、各自治体等における発掘とデータベース化、および成功事例に基づいた国内外マーケットへの打ち出し方/商品化の磨き上げ方法の可視化とプロセスの共有

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：コンセプト共有と既存取り組みおよび成功事例や定義の共有など
(年度内3回予定<総会含>)

活動②：成功事例等から想定可能なオポチュニティに関する意見交換
(年度内3回予定)

活動③：国内外ステークホルダ等との調整のもと事業推進に関する意見交換
(年度内3回予定)

成果

- ・無料で活用可能なアセットデータベース
- ・商流や旅程に組み込むマッチングフレームワーク

関連するゴール



あなたの街にも
日本人偉人は存在！

Super Japanese成功事例/コンセプト共有

Super Japanese掘起し/データベース作成

国内外マッチングフレームワーク創り

分科会の目的	日本技術者連盟が運営のインターネット動画EXPOサイトに、SDGsに関わる製品・技術・サービスをもつ企業のバーチャル展示会の会場を設置し、展示会開催が困難な事態になっても中小企業がPRできる場を立上げ、動画の投稿により、見込み客獲得を支援する
解決したい課題	リアル展示会に参加しても、目立たない、取引先が見つからない、何らかの原因で展示会来場者が極端に減る、もしくは展示会が延期などのリスクをなくし、小規模事業者でも大手企業と対等な立場でアピールができ、販路開拓を実現するEXPOを実現。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：サイト認知の拡大

メルマガや説明会の実施（年度内随時予定）

活動②：動画制作や投稿のサポート

SDGs動画の制作全般をサポート（無償及び有償）（年度内随時予定）

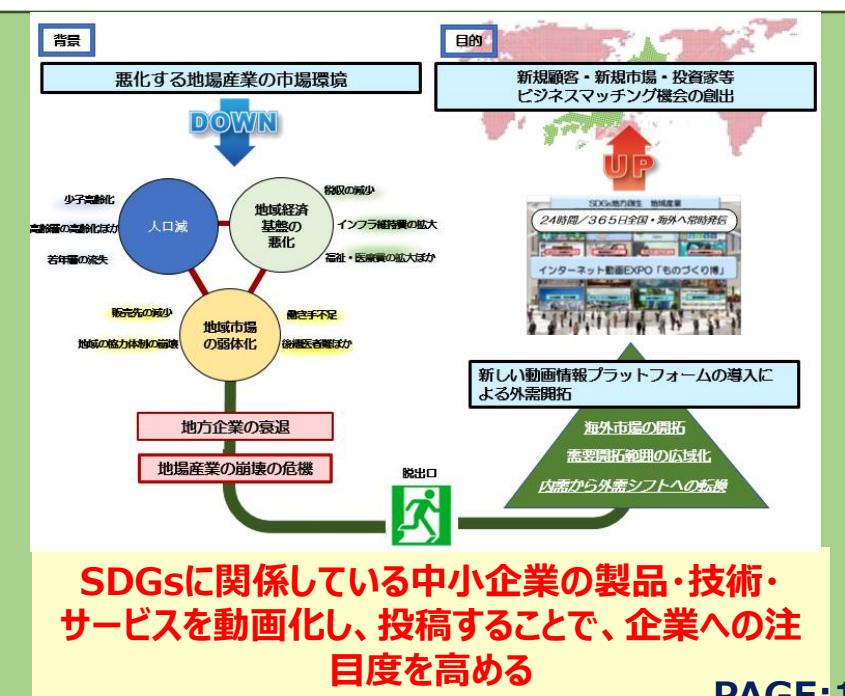
活動③：問い合わせ対応の支援

資料請求への問い合わせへの対応や資料作成の支援（年度内随時予定）

成果

- ・動画視聴数および動画視聴者データの取得数、資料請求数

関連するゴール



分科会の目的	日本技術者連盟が運営の動画サイト（WKXサイト）に出来るだけ多くの企業のSDGs動画が投稿され、資料請求などで動画視聴者からのアクションを増やし、投稿企業の株価上昇に繋げる
解決したい課題	・企業のSDGs活動を分りやすくするための動画テンプレートの確定化 ・内企業と内外企業、視聴者との“出会いの場”的なプラットフォームとしてのWKXサイトを確立し、国内SDGs活動を高める

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：サイト認知の拡大

メルマガや説明会の実施（年度内随時予定）

活動②：動画制作や投稿のサポート

SDGs動画の制作全般をサポート（無償及び有償）（年度内随時予定）

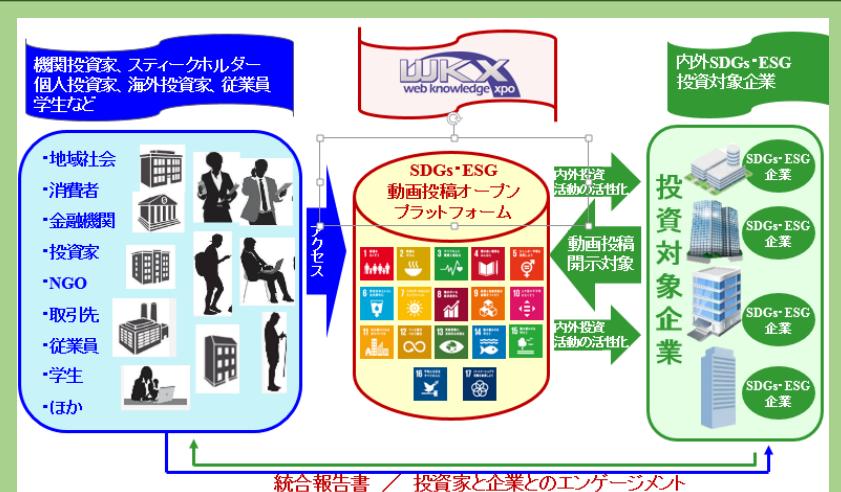
活動③：問い合わせ対応の支援

資料請求への問い合わせへの対応や資料作成の支援（年度内随時予定）

成果

- ・動画視聴数および動画視聴者データの取得数、資料請求数

関連するゴール



企業のSDGs活動を動画化し、投稿することで、企業への注目度を高める

SDGsゴール達成へ。世界標準ISO伝達術『プレイン・ジャパンーズ』

分科会提案者：株式会社エイアンドピープル

2021年度

継12

分科会の目的	SDGs活動の浸透と、組織の信頼を高めるために、世界標準のISO伝達術『プレイン・ジャパンーズ（平易な日本語）』でゴールの達成へ。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・DX（デジタルトランスフォーメーション）、ESG、テレワーク化が進む昨今、情報発信に一層透明性、スピード、簡潔さが求められている・日本企業や官公庁が作成する文章が冗長的であり、わかりづらいという現状が、円滑なコミュニケーションの障害となっている・SDGsが、国籍や教育の差によって、情報格差が生まれないよう「平等」「公正」を求めている・機械翻訳との親和性を高める

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①プレイン・ジャパンーズセミナー

- ・プレイン・ジャパンーズの基礎の理解とメリット
- ・グローバルスタンダードによるSDGsの対話

活動②プレイン・イングリッシュセミナー

- ・プレイン・イングリッシュと法的規制
- ・プレイン・イングリッシュの基礎の理解とメリット
- ・プレイン・イングリッシュと機械翻訳

活動③研究会・交流会

（①②③は年度内各1回～数回予定、状況によりWeb開催を含め検討）

*To get ordinary people on board,
SDGs should be communicated in
plain language and in the context of
everyday life.*

SDGsが広く社会の支持を得て、実現されるために、
その想いは生活者の視点に立ったプレイン・ランゲージで
語られねばならない。

Source <http://un.org/me/connecting-dots-around-sustainable-development-goals/>



関連するゴール



プレイン・ランゲージを使用するメリット

1. あなたが所属する組織に対して、関係者やステークホルダーの理解が深まる
2. あなたの発信する情報に基づいて、関係者やステークホルダーは的確な判断が下せる
3. 関係者やステークホルダーとのコミュニケーションが良好になり、信頼関係が高まる
4. 理解しやすさを工夫しているため、Web サイトや電子媒体、印刷物、動画の効果が高まる

個人、または組織が発信する情報がプレインに

↓
SDGsが共感を得やすくなり、17のゴール達成へ

分科会の目的	食に関するSDGsについて、フードスタディーズの視点から議論等を進めて、情報発信や政策提言、食に係る持続可能で新たな事業を考えるに当たって搖籃の場となるとともに、国際的な広報、情報交換のプラットフォームを構築し、ネットワーク化を図る。
解決したい課題	食に関するSDGsの諸課題の抽出とその解決に向けて分野横断的な議論を積み重ね、国境を越えた議論と協同に結びつけるとともに、民間企業、自治体、住民等による具体的な行動につなげる。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：食に関するSDGsのテーマを選定し、講演会（シンポジウム）を開催するなど、フードスタディーズの視点から課題や解決策等を整理し、政策提言につなげる。（4回程度実施予定）

活動②：講演会等の内容をSDGsジャパンポータルに掲載する。英語に翻訳して、海外にも広報していく。関係する海外文献も掲載していく。（随時）

活動③：①、②の活動を踏まえて、食に関する持続可能で新たな事業を考えるに当たって搖籃の場となる機会を設ける。（随時）

成果

食に関するSDGsの諸課題について、フードスタディーズの視点を通じてより深い議論や、食に関する持続可能で新たな事業展開につながっていくなど、SDGsに資する具体的な行動を促す呼び水となることが期待できる。

関連するゴール



➤2020年度のテーマは「公邸料理人の利活用」
 ➤2021年度は「ジビエ」「日本ワイン」を予定
 日本の食を背景に、今後もユニークなテーマを設定し、一見、食と関りが薄いように思われる業種の方々とも意見を交換し、その内容をとりまとめ、積極的な広報を推進したい。ひいては、政策提言につなげていきたい。

海外も意識した
広報の推進



分科会の目的	九州エリアにおいて、各地で個別に行われている取り組みの情報を持ち寄り、共有する分科会を設立することで、地域間のパートナーシップを推進し、九州からSDGsの成功モデルを発信することを目指す。
解決したい課題	九州エリアでSDGsを推進する自治体・企業・金融機関・団体・学校等の学びや連携の機会創出

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：フォーラムの開催

SDGsに関する最新の知見についての講演や、取り組み事例の発表等を行う（年度内1回程度予定）

活動②：交流会の開催

主に九州エリアでSDGsに取り組む自治体や企業、団体、学校等が一堂に会し、推進上の課題や疑問点等の意見交換などを行う（年度内1～2回程度予定）

成果

- ・各地域でのSDGsの推進
- ・共同した事業の実施
- ・SDGsの成功モデルの創出

関連するゴール



ALL九州 SDGsネットワーク



各地域での
取り組み事例の発表など

実務者間の
交流会



九州全体の
SDGsの推進

九州から
SDGsを盛り上げて
いきましょう！



分科会の目的	産業界（民間企業）、学校（教育、研究 機関）、官公庁（国・地方自治体）、民間（地域住民・NPO）が各々の特性・強みを活かし、その本分を果たしつつ、相互に連携し、起業、事業創生、地方創生及び教育創生に係る活動を実施し、SDGs課題解決を同時にを行うことを目的とする。
解決したい課題	本分科会において、各々の特性・強みを活かし、相互に連携し、起業、事業創生、地方創生及び教育創生に係る活動を実施し、SDGs各目標の課題解決を同時にに行いたい。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：連携推進ミーティング・イベント開催
(年度内 1～2回予定)

活動②：取り組み事例視察・調査開催
(年度内 1～2回予定)

活動③：情報交換会、ワークショップ、活動状況報告会を開催 (年度内 1～2回予定)

*東京理科大学の学内／学外各種リソース等を活用予定

成果

未来志向型のイノベーション事例創出

SDGs各目標の課題解決
ビジネスの創出・支援・連携
地方創生事業の創出・支援・連携
教育創生支援・連携



活動を通じて、目指すステップ

① 相互連携の「場」をつくる

② SDGs 各課題解決を目指す
事業創出・支援・連携

③ 未来志向型のイノベーション事例を生む



スマートフォンを活用した観光型MaaSに関する勉強会

2021年度

分科会提案者：株式会社駅探

継16

分科会の目的	スマートフォンを活用した観光型MaaSにより、観光情報のデータ化と交通機関ダイヤのデータ整備を行い①効率的な観光ルート②二次交通の利用促進③知らない観光スポットの提案が可能になります。国内外の観光客誘致と二次交通の利用促進により観光需要の創出とまちづくりの支援を目的とする。
解決したい課題	・地域交通の衰退（生活路線バスの利用者減少） ・紙媒体とイベント主体の観光施策（時間と場所に限定され一部の人にしか告知できていない） ・観光資産の頭打ち（新しい観光ブームが生まれない）

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：観光型MaaSにおけるデータ形式とプラットフォームの定義
(年度内1~2回予定)

活動②：モデル都市での二次交通の利用促進施策に関する意見交換
(年度内1~2回予定)

活動③：スマートフォン（アプリ）を活用した具体的な観光施策と検討
(年度内1~2回予定)

成果

「観光型MaaS」のモデル提示

関連するゴール



観光型MaaSのモデルづくり

①デジタルプラットフォームの整備
・観光スポット&地図データ
・地域交通の時刻表データ
・天候や旅行者データ

②実証実験
・モデル地区の検証
・観光モデルコースの分析
・地域モビリティサービスの検討

③参加団体によるプラットフォーム化
・データ仕様と設計の共通化
・開発と運用保守
・旅行会社との民間連携

▶ 「観光型MaaS」のモデル提示

“観光を通じた地方創生の SDGs 達成貢献”に関する勉強会

2021年度

分科会提案者：株式会社JTB、株式会社JTB総合研究所

継17

分科会の目的	新型コロナウイルス対応を契機とした社会の変容に伴い、観光もニュー・ノーマルのもとでのあり方を考えることが必須となっている。こうした環境変化も踏まえ、政府が掲げる「住んでよし、訪れてよし」の観光地づくりの基本方針のもと、「旅住包摂の実現」を目指し、観光が地方創生とSDGs達成に貢献する具体的な事業モデルを導き出す。また、ポスト・コロナ時代のニューノーマルの中で、サステナブル・ツーリズムを推進していくためのプラットフォームの構築を目的とする。
解決したい課題	・様々な産業・業界のステークホルダーの参画のもと、サステナブル・ツーリズムを推進する組織体制づくり。 ・ニューノーマル下で産まれた新たな潮流や新領域との連携も視野に入れ、次世代に向けたサステナブル・ツーリズムの推進や持続可能な観光地経営の在り方探求や先進／具体的な事例の創出。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：サステナブル・ツーリズム推進プラットフォームの強化と活用（日本サステナブル・ツーリズム・イニシアティブの設立）
“学ぶ”活動（年度内1回予定）

活動②：次世代に向けたサステナブル・ツーリズム推進に資する先進／具体的な事例創出に向けた議論
“守る・育てる”活動（年度内1～2回予定）

活動③：地方創生に向けたサステナブル・ツーリズム推進実現のため、観光事業者・地方公共団体・アカデミア・市民をつなぐ取組創出に向けた議論
“つなぐ・支える”活動（年度内1回予定）

成果

観光を通じた地方創生のSDGs達成に貢献する「観光SDGsエコサイクル」が機能的に循環する事例・ビジネスモデルとして有効な具体的・先進事例の創出

関連するゴール



観光 SDGs エコサイクルモデルつくり

①推進体制の強化とプラットフォームの効果的活用
・ニューノーマルにおける有効なサステナブル・ツーリズムの理念や考え方を理解
・サステナビリティを計る指標の理解促進

②具体的な事例創出

- ・観光地タイプ別事業
- ・MICE/教育・研修旅行

③イニシアティブ設立と活用

- ・組織の役割と活動内容告知
- ・サステナブル・ツーリズムの普及促進 等

観光を通じた地方創生のSDGs達成に貢献する「観光SDGsエコサイクル」が機能的に循環する事例・ビジネスモデルとして有効な具体的・先進事例の創出

高齢者・障がい者の旅行の環境整備宣言によるユニバーサルツーリズムの推進と地域振興

分科会提案者：おはようトラベル株式会社(ユニバーサルツーリズムセンターむさしの)

2021年度

継18

分科会の目的	観光にかかる行政、団体、企業、学校等が「高齢者・障がい者の旅の環境整備にそれぞれの立場で取り組む「ユニバーサルおもてなし宣言（仮）」でこの課題に取り組む意思表明をする仕組みづくり。
解決したい課題	高齢者・障がい者の旅行に関して、受け入れ側のソフト面・ハード面の体制を整える。物理的バリア、心理的バリア、経済的バリアの解消により、高齢者・障がい者が旅を気軽に楽しむことができる地域社会を実現する。そのための取り組み、事業創造を通じて、地域の観光需要の拡大し、資金循環と人の交流の増加に寄与する。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：プロジェクトの骨格作り（2021年度前半）

活動②：プロジェクトの骨格に基づく先進自治体等への働きかけ（2021年度後半）

活動③：分科会活動報告会（広報活動）をオンライン等で開催（年度内6回予定）

成果

- ・自治体等とのプロジェクト開始（3件）
- ・活動の趣旨に賛同し分科会に新たに参加する団体の増加（数値目標なし）



1. 宣言と宣言に基づく活動、成果を明確にする。

2. 「ユニバーサルおもてなし宣言」を行い、やるべきことを決めて、やる。

地域市民
関係市民
交流市民
自治体
地域DMO
観光団体等
観光関連事業者
福祉・介護・医療関連
事業者等

3. 「ユニバーサルなおもてなし」=ここなら楽しめる！という安心
誰もが主役の観光産業：宿泊や食事、観光施設、地場ならでは体験やイベント、旅案内も介助もできる地元のセンター、お接待文化

4. 他地域への働きかけ
ユニバーサルなおもてなしを日本の文化に！

中小企業・サプライチェーンにSDGs・CSR・環境経営の普及 と宣言・登録・認証制度のパイロット運用

2021年度

継19

分科会提案者：一般社団法人日本経営士会（AMCJ）

分科会の目的	企業、中でも中小企業、サプライチェーンに対してSDGs・CSR環境経営を普及することにより持続可能な経営とSDGs169のターゲットから地方創生を意識した新規事業を促すとともに、企業が本業の一環で推進するSDGsに関する取り組みを宣言・登録・認証する制度を利用することで、マルチステークホルダー連携を強化し、事業の成長と共に自社の認知度向上、地方創生SDGs達成に寄与する「SDGs de 可視化」を実現する。
解決したい課題	・企業にとっては短期的には利益につながりにくいので経営者から敬遠される事が多い。 ・SDGs・CSR・環境経営で地方創生に成功した事例を創出し、または集め日本全体に広報する。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：準備期間

年度内12回SDGs委員会予定Zoomにて（年度内12回予定）

活動②：セミナー開催と討議

SDGs・CSR・環境経営は中小企業にとってメリットありと啓蒙し具体的な展開Zoomにて（年度内2回予定）

活動③：振返りと次年度の支部展開の具体策（年度内1回予定）

成果

日本経営士会の推奨するSDGs・CSR・環境経営マネジメントシステムおよびSDGs de 可視化導入企業5社を目標

関連するゴール



「SDGs・CSR・環境経営は企業にとって
メリットがある」セミナー・討議

セミナー出席会員企業が納得

SDGs・CSR・環境経営導入
「SDGs de 可視化」宣言など

活気ある企業に変貌

分科会の目的	地方創生の推進とSDGsのゴール達成のために、DMOとの連携による日本観光立国実現に向けた実施計画書の作成と提示
解決したい課題	<ol style="list-style-type: none"> 経済格差により生まれる貧困の問題 少子化や人口の一極集中による地方の人口減少問題 人材不足や福祉介護医療費の増加が懸念される2025年問題

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：DMOとの連携web会議

実施内容：DMOとのまちづくりに関する打ち合わせや意見交換（年度内の実施回数：必要に応じ随時）

活動②：まちづくり企画web会議

実施内容：どのような観光事業を創出できるかの意見出しと情報共有（年度内の実施回数：必要に応じ随時）

活動③：まちづくり実施計画策定web会議

実施内容：観光事業実施に向けた具体的実施計画書の作成（年度内の実施回数：必要に応じ随時）

成果

- ・連携・協働を活かした経済の活性化プラン
- ・地域への移住促進による人口一極集中の是正プラン
- ・住民が住みたくなる介護・福祉の充実したまちづくりプラン

関連するゴール



地方創生観光事業

あらゆる業種・業態がコラボした
まちづくり会社を軸とする
観光都市の建設。

観光都市の相関図

福祉の向上

自治体 = 住民

税収UP // 雇用の促進

飲食 企業 販売
宿泊 NPO
まちづくり会社



活動①
DMOとの連携web会議

活動②
まちづくり企画web会議

活動③
まちづくり実施計画策定web会議

分科会の
目的

包括的かつ持続可能な地方の発展に向けて、地域における課題と科学技術をベースとした解決策（シーズ）を共有し、課題解決に向けてステークホルダーが共創する機会を構築する。

解決したい
課題

産官学社会の様々なステークホルダーが出会い、地域の課題、技術や科学的な知見、情報等を共有する場をつくり、SDGsの達成に資する科学技術イノベーション（STI）を活用した地域における新たな解決策を創造していくことを促進する。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：地域STI for SDGs産学官社会連携会合

分科会メンバー会合、分科会メンバーと連携した地域における公開会合を開催。地方自治体、地元企業や大学、研究機関等と意見交換。

活動②：STI for SDGs関連情報の共有

科学技術を活用したSDGsの取組を支援するJST制度、制度利用プロジェクト主催の企画、分科会メンバーの活動情報等のSDGs関連情報についてメールで月2-3回情報提供。

活動③：展示会等への出展を通じた情報発信

Webや国内外の展示会（エコプロ2021を予定）で幅広いステークホルダーへ情報発信

成果

課題や技術シーズの情報共有、地域の課題解決事例の形成

関連するゴール



地域を中心とした新たな価値創造

内閣府 地方創生SDGs官民連携 プラットフォーム

地域産学官社会連携分科会 (ネットワーク構築、マッチングの場)

自治体、企業、大学・研究機関、市民団体等

申請・応募等

ソーシャル・インパクト・ボンド等

地域循環共生圏の形成
(環境省)

省庁の事業や民間ファンド等

展開可能なJST事業の例

「STI for SDGs」アワード

サイエンスアゴラ
連携企画
(未来共創推進事業)

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
(SOLVE for SDGs)

A-STEPなど
(復興支援等含む)

オンラインや国内外の展示会等を通じて事例の共有

分科会の目的	「守るべき食文化の危機」と「健康と安心安全への高い関心」への身近な取り組みを通じて、教育機関、家庭、地域、事業者、自治体が連携し、子どもたちを含めた住民への食育活動を推進することで、社会全体でのSDGsの取り組みと、意識を高める。
解決したい課題	日本の「食」からSDGsを考え、共有し、具体的な活動をするメンバーを増やす。現在、独立している「医療、栄養、調理」のそれぞれの知識を共有し、新たに「健康になる食文化を創る」ための教育を普及させるべく、一步目を踏み出したい。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

地域活動や事業活動でのノウハウやつながりを共有し、それらを発信する機会を創出する。

活動①：メディシェフ地域会議

各地域で参加希望者を募り、それぞれの立場から意見交換を行う。
(年度内2回予定)

活動②：メディシェフイベント

食育イベントや料理教室、メディシェフレシピコンテストなど
(年度内数回予定)

活動③：メディシェフサミット

各地域でのメディシェフ地域会議やメディシェフイベントの内容を共有、
メディシェフとしての全国への発信と振り返り。
(年度内1回予定)

※当面はコロナウイルスの影響を鑑みオンライン会議にて開催予定
※テーマについて、ウェルビーイング教育としての食育導入や、コロナ禍におけるオンライン食育による解決策などについても検討する

成果

食文化の創造と堅持、食育活動の推進、
ウェルビーイング教育の推進など

関連するゴール



1.1) メディシェフを生み出す仕組み



2. メディシェフの位置づけ

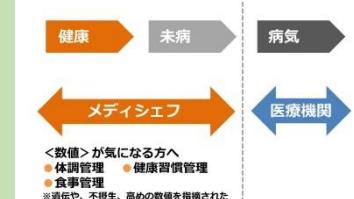


1.2) メディシェフとは



キーワード 地産地消と医食同源
栄養素と健康の見える化

3. メディシェフが担う役割



分科会の目的	災害時の支援を迅速に行えるように知識の共有を目指す
解決したい課題	・災害時の支援が各地でなされていてノウハウも蓄積されている。しかし、近年の災害は今まで考えられなかった土地でも起こっているため、必ずしも機能できているとはいえない状況である。それがうまく機能するように、一元化したい。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：支援団体・個人を募る→プラットフォームの構築

活動②：構築が出来た後、数か月に1度にZoomなどで状況確認

活動③：災害が起こった時、支援物資や人材を回しあう。

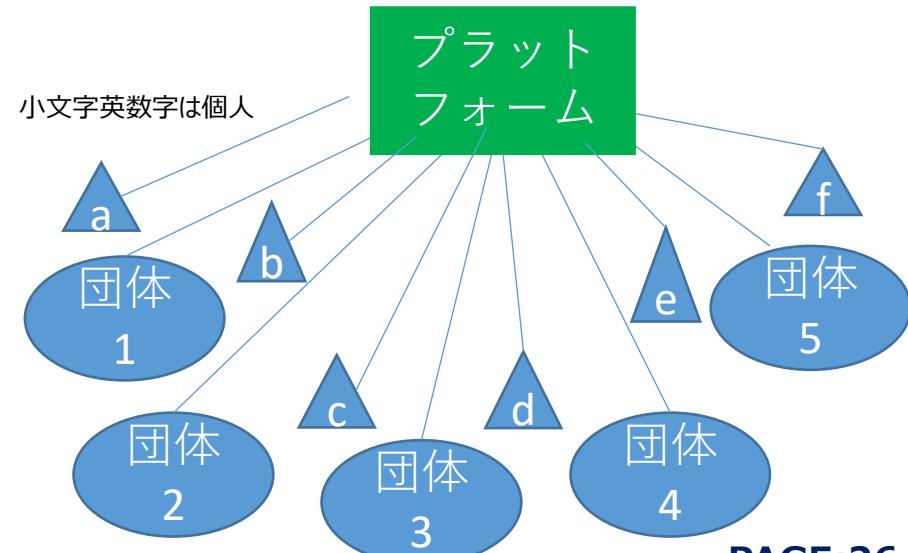
成果

- ・支援物資の有効活用・支援人材の確保が可能
- ・災害地への迅速な支援が可能

関連するゴール



各地の団体・個人を一つのプラットフォームにし、情報を共有できるようにする。



分科会の目的	地域エネルギー・ビジネス創出の為の環境を整備する。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域エネルギー・ビジネス創出の為のプラットフォームの構築。 ・レジリエンス(災害対応)の強化への仕組みづくり。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

- 活動①** :
- ・地域エネルギーにおける機能の検討
 - ・安全性の高い需給一体型モデル(太陽光)
 - ・レジリエンス(災害対応)強いシステム検討
 - ・農業とエネルギーの活用方法の検討
(年度内5回開催予定)

- 活動②** : セミナーの実施
(年度内1回開催予定)

- 活動③** : 成果の報告
(年度内1回開催予定)



- ・地域エネルギー・ビジネス創出の企画書(事業プラン)の作成。
- ・人材育成の為の計画。

関連するゴール



自家消費型 太陽光発電
(安全性・効率性の高い設備の導入)

蓄電池による電力調整
レジリエンス(災害)対応の仕組みの検討

地域エネルギー・ビジネスの創出
(持続可能な地方創生を支援)

ファイナンス・
導入支援
補助金

2030年



GALE

PAGE:27

分科会の目的	海外自治体と日本の地方との連携により、人材交流を推進しSDGsの目標を達成する。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> 人材スキルの向上(農業、環境、エネルギーなど) 人材不足の解消

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：定例会議の実施
(年度内4回予定)

活動②：セミナーの実施
(年度内2回予定)

活動③：活動報告書の検討
(特定技能者の受け入れ方法の検討を進める)
(年度内1回予定)

成果

- 課題の抽出と課題の解決方法の検討
- 人材スキルの向上と人材不足の解消

関連するゴール



日本
市町村
(企業)

- 地方課題の検討
- 人材不足の解消

分科会

海外
ベトナム
台湾など

人材の育成
農業
環境
エネルギー
など

廃棄物削減と持続可能なリサイクル化について検討

2021年度

分科会提案者：翔飛工業株式会社

継26

分科会の目的	使い捨て生活から脱却しリサイクルに取り組む循環型社会を目指す。リサイクルの取り組み企業とのマッチング
解決したい課題	リサイクル可能な製品の排出量削減方法と持続可能なリサイクル化の検討

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：リサイクルに取り組んでいる企業などと新商品開発に向けた意見交換
(リサイクル可能な廃棄物の種類や量等について)
(年度内1~2回予定 web会議)

活動②：廃棄物削減方法やリサイクル方法に取り組んでいる企業や専門家との意見交換
(回収方法やリサイクル方法について検討等)
(年度内1~2回予定 web会議)

活動③：廃棄物排出者と廃棄物取組者との具体的な取り組みを検討
(ビジネスモデルの検討等) (年度内1~2回予定 web会議)

成果

廃棄処分されていた製品のリサイクルに向けての推進

関連するゴール



生産工場、解体、工事現場



塗り材(左官材) 建材(ブロック)、
舗装材、家畜飼料



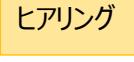
種類



量



困っている



ヒアリング

全国

リサイクル



リユース

取り組む技術

マッチング

商品開発

普及していく

島嶼SDGs～「住み続けたい」を支えるための、島における 社会・環境・経済の調和した自立的発展のための取り組み～ 分科会提案者：国立大学法人 長崎大学

2021年度

継27

分科会の目的	島の持つ地理的・社会的条件下で、島が島外との健全な関係性の下、地域ニーズの掘り起こしの上で、自立的発展を社会・経済・環境の三側面の調和の下に遂げるための取り組みの集積と発信。それによって、住民が希望する限り、島に住み続けられる環境を支えたい。
解決したい課題	産・官・学・金・民がいかに影響を及ぼして、広く薄く住む対コンパクトシティ型の島の集落社会を維持し、島全体の自立的発展に寄与できるか。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：集落社会への集落外からの働きかけのモニタリング・知見の集積と公表（今年度内1回予定）

活動②：本土と島との双方向のセミナー等の中継（年度内1回予定）

活動③：小・中・高を対象にSDGsに関する講座を開催（年度内1～2回予定）

成果

島の持続性・自立的発展のための島外からのあるべき島への関わり方の提案書、及びその成果に基づく島嶼国の能力・人材育施策の発信

関連するゴール



分科会提案者：一般社団法人日本経営士会（AMCJ）

分科会の目的	中小企業経営の自己評価ツールとして、また金融機関等の与信評価ツールとしても活用可能な、SDGsの理念に基づく企業評価基準・指標を開発する。また、企業が本業の一環で推進するSDGsに関する取り組みを社会的インパクトの手法を使って推進し、併せて宣言・登録・認証する制度も活用することで社会的にも認知度を高める。マルチステークホルダー連携強化、地方創生SDGs実現を目指す。
解決したい課題	・財務・収益規模が小さく内外要因により大きく財務内容が変動する中小企業こそ非財務的要素による持続性重視の企業評価が必要且つ重要。「SDGs de 可視化」 ・企業：調達手段手法の多様化ニーズ。与信側：債権劣化リスク縮小ニーズ。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：検討会

17ゴールを分解、ESGデータ諸要素を中小企業経営の日常活動ベースにブレイクダウンして、押えるべき要素を（取捨選択）検討。

活動②：モニタリング

社会的インパクト手法も併せて活用し、企業活動で中でSDGs活動の実証実験。
(年度内数回程度チェック予定)

成果

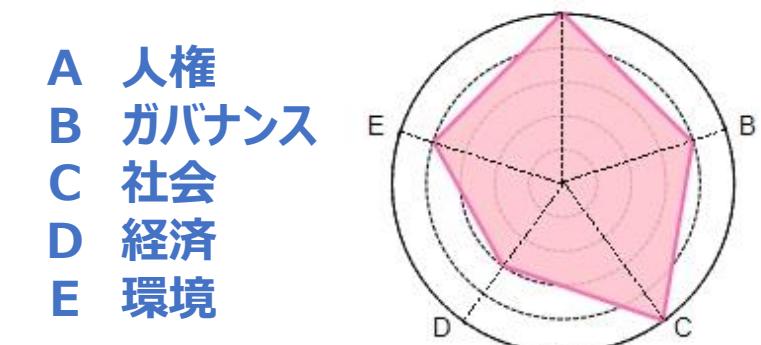
・中小企業向け非財務要素による企業評価ツール開発、上記課題解決。

関連するゴール



参考：評価ツールのイメージ例

A 人権
B ガバナンス
C 社会
D 経済
E 環境



カテゴリー毎項目の達否集計・マッピング、上限有、必達項目有、最終5段階評価、etc

分科会の目的	地域全体として推進する健康づくりに関する手法や事例の情報を共有することによって、関連する課題を持つ地方自治体や団体への横展開を促進する。
解決したい課題	地域の人的資源、社会的資源に応じた施策を実現するためには、対象となる地域と類似した特性を持つ地域の情報収集が有効であり、そのための情報収集・情報発信の場が必要である。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①研究会開催：研究発表・事例紹介と討論をする（年度内2～3回予定）

活動②事例調査：先進事例を調査し、研究会で報告する（年度内1回予定）

活動③視察：先進的な取り組みが推進されている地域を視察するが、今年度はオンラインによるヒアリング調査の可能性あり（年度内1回予定）

成果

- ・先進事例の横展開の促進
- ・研究会等の活動成果のデータベース化

関連するゴール



手法や事例の情報共有とデータベース化

研究会

事例調査

視察

研究会の開催を通じて情報共有するとともに、データベース化することによって地域で健康まちづくり施策を検討する際の検討材料を提供することを目指しています。



分科会の目的	地方創生SDGsを通じた地方自治体、金融機関、教育機関、企業の連携により、地域住民並びに移住者（希望者含む）の就労環境整備を実現し、同時に地域事業者（特に中小企業）のデジタル化を推進することによる産業振興を実現する。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体及び金融機関への地方創生SDGs（デジタルワークファクトリー構想）の推進 ・地方創生SDGsを推進する地方自治体・金融機関・教育機関・民間企業・各種団体等の連携機会創出

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：各自治体における就労課題及び地域産業におけるデジタル化の実態調査を実施（年度内6回予定）

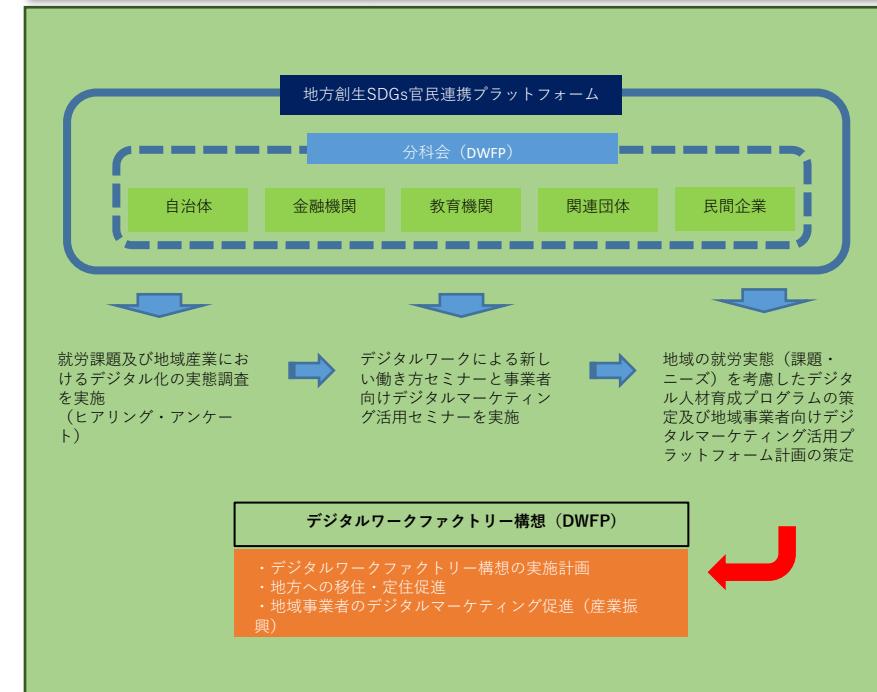
活動②：デジタルワークによる新しい働き方セミナーと事業者向けデジタルマーケティング活用セミナーを実施（年度内6回予定）

活動③：地域の就労実態（課題・ニーズ）を考慮したデジタル人材育成プログラムの策定及び地域事業者向けデジタルマーケティング活用プラットフォーム計画の策定（年度内3回予定）

成果

- ・デジタルワークファクトリー構想の実施計画
- ・地方への移住・定住促進
- ・地域事業者のデジタルマーケティング促進（産業振興）

関連するゴール



自治体向け地方創生SDGsオンライン相談分科会

分科会提案者：内閣府地方創生推進事務局

2021年度

継31

分科会の目的

現在、地方創生SDGsの取組を全国自治体の6割への普及、及びSDGs未来都市の増加（2024年度で210都市）を目指し、地方創生SDGsの取組推進を実施しているところ。今後さらに裾野を広げ普及展開を図るため、自治体からの相談等をオンラインで実施可能とする仕組みを構築し実施する分科会を設置することで、全国へのより一層の普及促進へ繋げる。

解決したい課題

- ・地方創生SDGs関連の相談機会の仕組みが少なく、各地域には無い。また、自治体が内閣府に対しどの段階で相談できるかわからない。
- ・地方創生SDGsの推進をしている自治体同士のコミュニケーション機会が少ない。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動1：オンライン相談の仕組み構築

活動2：段階的相談の仕組み検討・構築

- ①地方創生SDGs入門
 - ②地方創生SDGs実践相談（随時開催）
 - ③SDGs未来都市応募相談（1都市3回/年程度開催）
 - ④SDGs未来都市実践相談（1都市3回/年程度開催）
- ※1号会員（自治体）が対象。

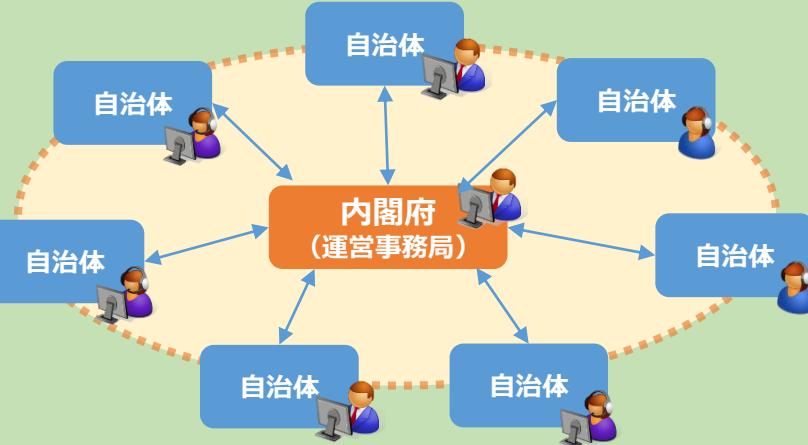
分科会活動としては②、③を主とし、①④は内閣府の自主的な活動。

活動3：オンライン相談の展開策等検討

成果

- ・地方創生SDGs推進の取組増加による地域課題解決の促進
- ・より具体的かつ実践的な各種提案及び計画立案の促進
- ・SDGs未来都市等に係る提案数増加及び普及展開
- ・地方創生SDGs推進に係る人材育成、官民連携の促進
- ・既SDGs未来都市の取組促進

関連するゴール



これまで

- 対面での相談
- 電話、メール

オンライン

- オンライン相談
- オンライン会議

地方創生SDGsの取組普及促進

「自発的自治体レビュー」(Voluntary Local/Regional Review) 研究会

分科会提案者：(公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES)

2021年度

継32

分科会の目的	SDGsに関する「Voluntary Local Review(自発的自治体レビュー)」について、好事例などを通じた学びを通じて、ローカルSDGsの実施レビュー・報告の在り方について検討する。
解決したい課題	本邦自治体によるVLRの実施促進、SDGs未来都市の進捗度レビューとVLRの連動の可能性や本邦自治体の取組みの国際発信・展開方策の必要性

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：SDGsの進捗度の測定方法、ローカルステークホルダーとの連携などについて、専門家や関連する国内外の自治体を招き勉強会を開催（年度内2回予定）

活動②：活動①を踏まえVLR（SDGs実施レビュー・報告）に関するあり方についてのとりまとめと発信（年度内1回予定）

成果

・報告書や報告会による発信を通じたVLR推進、

関連するゴール



自発的自治体レビュー(VLR)と手引き



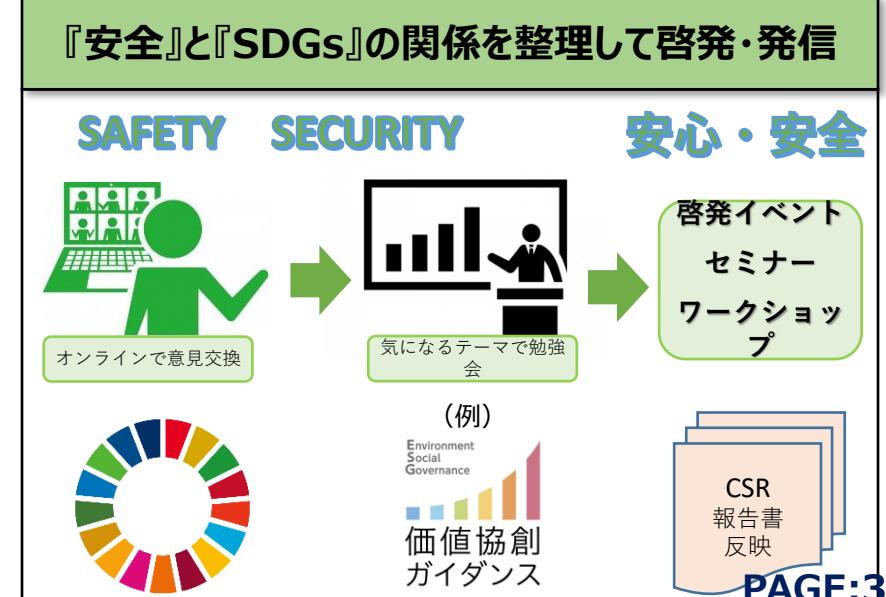
①日本国内外の事例を深堀。専門家も招待。知見・事例収集・共有を行う

③国内自治体、ローカルステークホルダーによるVLRの可能性検討

②勉強会の開催による効果的なVLRの推進方策の検討

分科会の目的	SDGs実現の前提条件である安全（製品安全・消費者安全）について情報交換・再認識すると共に、エシカル（安全を含む）な消費と生産について啓発活動を行う。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・『製品安全・消費者安全』の現状を再認識し、消費者への意識啓発や事業者からの積極的な情報発信を促す・『安全』の価値観や社会からの受容度の変化について意見交換する

分科会での活動内容 及び 期待される成果	関連するゴール
<p>活動①：メンバー間での意見・情報交換会 製品安全・消費者安全とSDGsに関する各団体の考え方、新着情報やテーマ別勉強会で取り上げたい事例等についてメンバー間で情報交換（隔月ペース）</p> <p>活動②：テーマ別勉強会 情報交換会で提案されたテーマに関する勉強会（四半期ペース）</p> <p>活動③：啓発イベント（消費者・事業者向け） 情報交換会やテーマ勉強会の学びを活用して、対外的なイベント（セミナーやワークショップ等）を展開（年1～2回）</p> <p style="text-align: center;">成果</p> <p>製品安全・消費者安全とSDGsの関係性整理 消費者等に向けたエシカル（安全を含む）啓発活動 事業者からの『安全』に対する発信情報の充実</p>	<p>関連するゴール</p> 



分科会の目的	自治体のSDGsの取組や現状、進捗評価をわかりやすく可視化・共有するプラットフォームのあり方を検討する
解決したい課題	・具体的な指標のあり方を検討すると同時に、その現状、進捗、目標を住民、職員、自治体間で共有するためのわかりやすい可視化手法の検討

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：昨年度の分科会検討を踏まえ、GISの可視化対象となりうる指標について、具体的な地域課題の抽出可能性について議論する。
(年度内3回予定)

活動②：モデル都市などの取り組みを踏まえて、GISを用いた可視化と行動変容の可能性について共有する

成果

- ・SDGs可視化プラットフォームのイメージ案
- ・検討報告書作成及び成果報告会の開催

関連するゴール



①利用可能なデータの把握

利用可能な独自で集計しているデータやオープンデータを把握します

②指標の検討

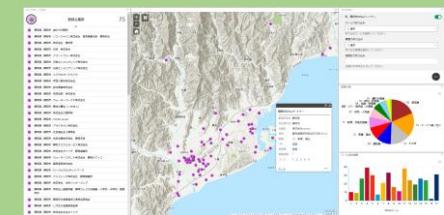
政策に応じて、可視化するSDGsの指標を検討します

③GISによる可視化

マップに可視化し、進捗状況の確認や市民への公開を通じた行動変容の可能性について検討します



SDGs投稿アプリ



SDGsパートナー制度

分科会の目的	<ul style="list-style-type: none"> 大学事業会社である東京理科大学インベストメント・マネジメント株式会社が内閣府地方創生プロジェクトの取り組みで獲得したノウハウ、学内外の産学官民連携のネットワークを活用し、地方創生を事業化し持続可能なベンチャーエコシステムを構築する。 志のある地方自治体、起業家、事業会社に対するベンチャー経営者を支援する分科会を設立することで、地域資源および再生可能エネルギーを活用した地方創生事業の推進とベンチャーエコシステムを構築するだけでなく、地方創生プロジェクトの事業化を目指すために必要な調査研究を行う
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> 東京理科大学インベストメント・マネジメント株式会社は、現在我が国の地方の抱える最大の課題は、生産年齢人口の減少にあり、その解決のためには、その地方に適した雇用を生み出すことのできる地方創生プロジェクトの事業化、持続可能なベンチャーエコシステムの構築が必要であると考える。 当分科会では、地域資源および再生可能エネルギーを活用した地方創生事業の推進とベンチャーエコシステムの構築について、自治体や地方での事業可能性を検討している民間企業と調査研究を行い、事業化の可能性を検討する。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：実施内容：地域資源を活用した事業および先端技術を活用した持続可能な新規事業を地方で展開している実例の勉強会
(年度内4回予定)

活動②：地域における先端技術を活用したSDGs推進や脱炭素社会の構築に資する再生可能エネルギー事業の展開に関する調査・研究 (年度内1回予定)

成果

活動①：持続可能な地方創生事業の創出、地域と関係人口の増大に貢献するベンチャーエコシステムの構築
活動②：地域資源および再生可能エネルギーを活用した地方創生事業の推進に必要な調査の実施。各自治体の有する特色を組み合わせた競争優位性のある事業計画の立案。

関連するゴール



目指す姿



地域の
産業

地域の資源・
再生可能
エネルギー

理科大
の
技術

事業
の
パートナー
の協力

→地域に雇用を生む持続可能なベンチャーエコシステムの構築

ジェンダー平等による問題の可視化と対策

2021年度

分科会提案者：一般社団法人パートナーシップ協会

新02

分科会の目的	企業・社会団体のジェンダー平等への理解を可視化し、共有する。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・企業が団体がジェンダー平等を活用するメリットの周知・企業や団体がジェンダー平等を理解しないことのリスクと対策の周知・結婚制度とジェンダーの平等の理解の周知と活用方法

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：ジェンダー平等経営、および学校教育に関する講演の実施

（年度内4回予定）

活動②：ジェンダー平等に関する調査・アンケート活動の実施（年度内4回予定）

活動③：家庭でのジェンダーの役割、および結婚制度の多様化の調査と課題の可視化（年度内4回予定）

成果

上記の調査報告書作成及び
成果報告会の開催

関連するゴール



指標の可視化までのステップ

ジェンダー平等の調査



ジェンダープログラムの開発

PARTNER



ジェンダー研修の提供

ジェンダーに関する課題が可視化され
ジェンダー平等による問題の解決へ

大規模災害時の救急艇の必要性の訴求と防災意識醸成に向けた「ハザード教育」の開催

2021年度

分科会提案者：公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル

新03

分科会の目的	大規模災害時の救急艇の必要性の訴求と防災意識醸成に向けた「ハザード教育」の開催（ハザードマップを作り、見ただけでは無く、災害時の危険性を感じ、どう対応するかを考える）
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・東京オリパラの円滑な運営に対する支援（炎天下の東京ベイエリア）・大規模災害時の病院船・救急艇の必要性に対する幅広い理解・平常時からの大規模災害に対する防災意識の向上と実践

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：東京オリパラ大会時民間船舶活用～救急艇搬送訓練
(年度内 6~9回予定)

活動②：東京オリパラ大会時民間船舶活用～救急艇搬送実運用

活動③：防災意識醸成に向けた「ハザード教育」の開催
(年度内 6~12回予定)

成果

- ・東京オリパラの円滑な運営支援
- ・大規模災害時の病院船・救急艇の必要性に対する幅広い理解
- ・平常時からの大規模災害に対する防災意識の向上と実践

関連するゴール



分科会の目的	SDGs実現を目指す企業と学生が利用する就職・採用プラットフォームを構築し、マッチングや就職・採用課題の共有と解決策を検討する。
解決したい課題	・地方で輝くSDGsに具体的なソリューションを提供する企業の人材不足解消 ・魅力的な就職先情報を提供することでの若年層のキャリア支援

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：全国の就職支援に関わる大学教授に実施したアンケート調査の情報共有や参加会員同士による人材採用に関する課題の共有（年度内2回予定）

活動②：参加企業の採用情報を取りまとめ、月一回、機構が提携する全国の就職支援に関わる大学教授（約12,000名）に配信し、就活生へ広報活動を実施（月1回予定）

活動③：就職イベントの開催

SDGsや環境問題をテーマとしたキャリアイベントを開催し、参加企業と学生の交流を促進する（年度内1回予定）

成果

- ・全国の大学生への就職情報・キャリア支援情報の提供
- ・企業の人材不足の解消、雇用による地方創生の実現

関連するゴール



指標の可視化までのステップ

活動①



参加企業間で採用にまつわる課題を共有。採用情報をまとめます。

活動②



採用情報を全国の大学キャリア支援者宛に配信。

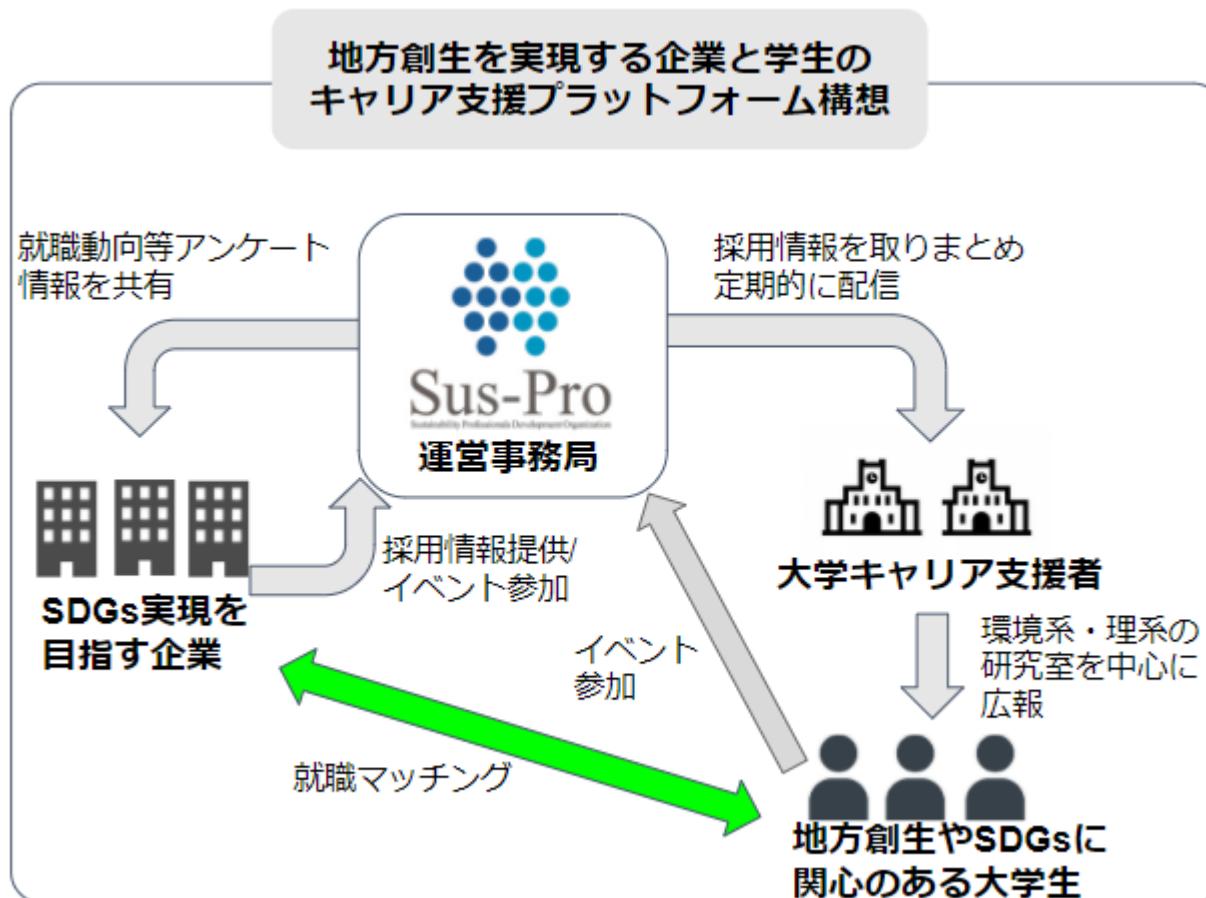
活動で得られた企業・学生の声を参考に次年度の活動精度の向上を目指す。

活動③



キャリアイベントを開催し直接の交流機会を創出

活動イメージ図



分科会の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の低栄養予防に資する調剤薬局（栄養ケアサポート薬局）の全国配置。 ・高齢者の社会参加と農業者の所得増大を促す医福食農連携の整備。 ・高齢者の低栄養予防コンソーシアムの創設・運営。
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに資する栄養ケアサポート薬局の全国拡散と住民周知。 ・公民連携による低栄養予防の推進。 ・JAをはじめ農業者との医福食農連携の整備。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：情報提供・体制整備

栄養ケアサポート薬局/事業の自治体・JA等へ情報提供。各地での医福食農連携の推進。（年度内4回予定）

活動②：セミナー開催

「高齢者の低栄養防止コンソーシアム」「多職種連携会議」セミナーの開催（年度内2回予定）

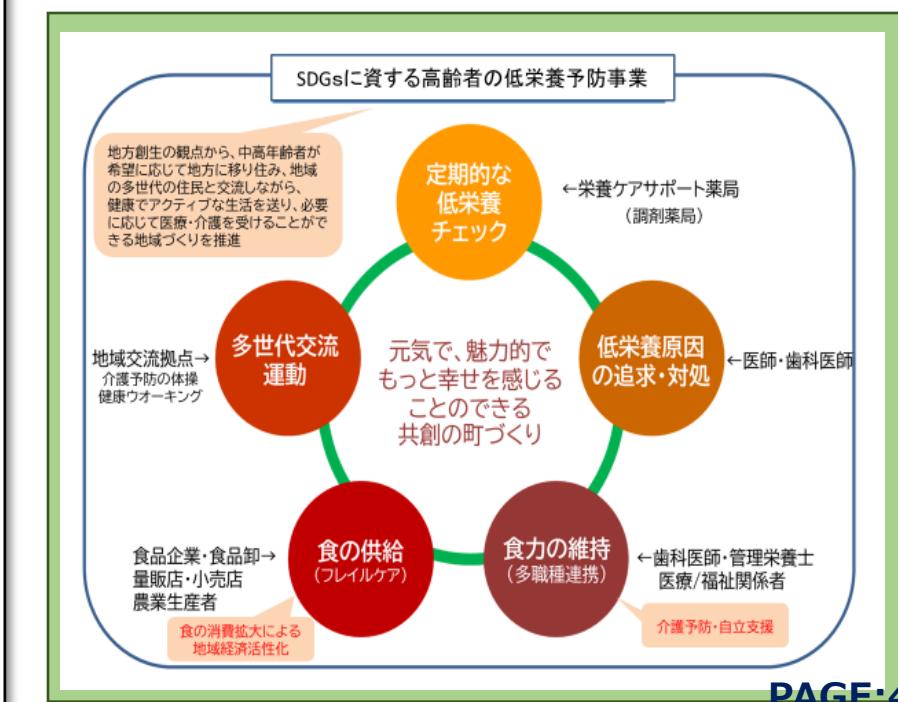
活動③：公民連携事業の創出

公民連携による介護予防事業の創出、体制整備に関する協議を行う。（年度内4回予定）

成果

- ・高齢者の健康寿命延伸と医療費適正化効果
- ・高齢者の社会参加による地域活性化
- ・地域交流拠点の創出

関連するゴール



地域課題解決分科会

2021年度

分科会提案者：株式会社ラック

新06

分科会の目的	各地域の課題をテーマとして収集し、分科会参加者にて提案・解決を目指し、事例を広く共有していくこと
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・各地域との関係人口の増加、地域間の情報共有による課題解決・地域課題に取組む実証実験から地域での事業創出や参考事例の共有化

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：地域課題の収集・活動内容の共有をオンラインで分科会として開催（年度内10回予定：月次定例的に開催）

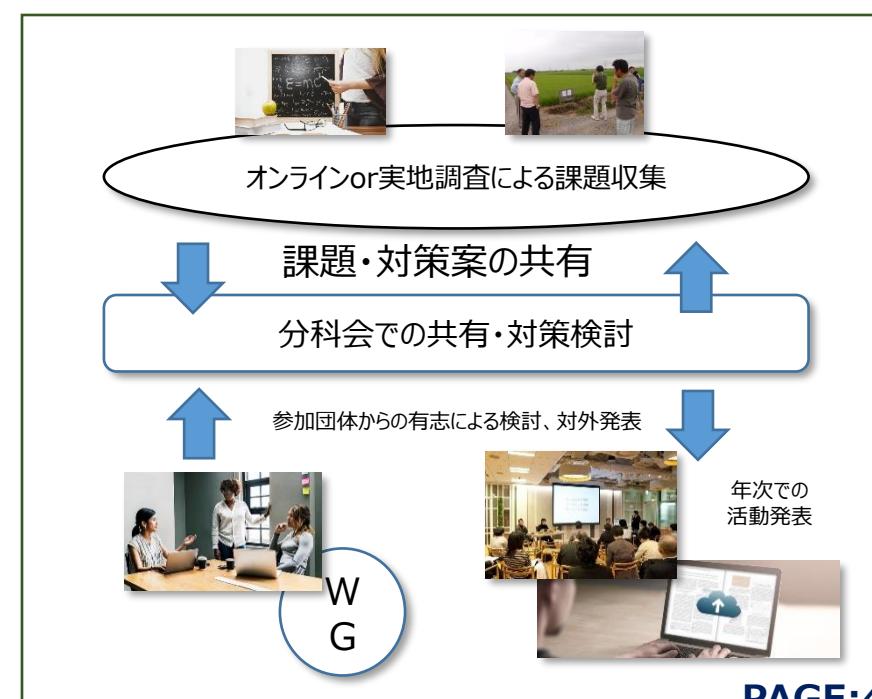
活動②：参加自治体からの地域課題説明プレゼンイベントをオンラインで開催（年度内1回予定）

活動③：地域課題に取り組む各事業者からのサービス・事業プレゼンイベントをオンラインで開催（年度内1回予定）

成果

- ・年次での活動成果発表
- ・各地域での施策の参考として広く展開

関連するゴール



分科会の目的	地方公共団体が実施するSDGs事業における官民連携の手法として、成果連動型民間委託契約方式を効果的に活用するために必要な取組を推進する
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"> ・SIB/PFSの特徴とメリットの周知 ・地方公共団体の課題感に沿ったSIB/PFSの活用方法可能性と手法の検討

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：勉強会

国内事例等の共有を行い、SIB/PFSに関する理解を深める（年度内5-10回予定）

活動②：意見交換会

各地方公共団体、企業等のSIB/PFS活用・検討状況に関する情報・意見を交換し、具体的な施策実施場面における施策を深める（年度内2-3回予定）

活動③：具体的検討

個別地方公共団体等の具体的な課題感に対するSIB/PFSの活用方法の検討及び検討結果の発表（年度内隨時検討、最終発表1回予定）

成果

- ・SIB/PFS（成果連動型民間委託契約方式）における既存事例の知見の集積・共有
- 今後の官民連携手法としての広がり（成果報告）

関連するゴール



SIB/PFSの有効活用までのステップ

活動① 勉強会

SIB/PFSに関する理解

活動② 意見交換会

実際の事例に基づく知見の獲得

活動③ 具体的検討

課題感に基づくSIB/PFS活用検討

SIB/PFSの効果的活用による課題解決

2021年度

分科会提案者：株式会社COクリエイト

新08

分科会の目的	官公庁（国・自治体）の担う役割を民間（民間企業、非営利法人）が代理遂行できる仕組みを開発し様々なSDGs課題解決を行っていくことを目的とする。
解決したい課題	官公庁が対応するために時間を有する社会課題を解決するための仕組みを組成し、官民連携にてSDGs各目標の課題解決を行いたい。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：定例会議の実施

(年度内4回程度予定)

活動②：セミナーの実施

(年度内4回程度予定)

活動③：活動報告書の作成

(プロトタイプ実証実験報告)

(年度内 1 回予定)

成果

- ・課題の抽出と課題の解決方法の策定
- ・プロトタイプ実証実験での成果分析

関連するゴール



活動内容

- ①自治体の課題の検討
 - ②課題解決システムの検討
 - ③プロトタイプ実証実験の実施
- 既存ビジネスプラットフォームの活用



動物との対話をとおして持続可能な社会の担い手を育成

2021年度

分科会提案者：株式会社ヌールエ デザイン総合研究所

新09

分科会の目的	サステナブルな環境づくりを推進していくことは人類にとっての早急な課題です。そしてSDGs課題の担い手は次世代の子どもたちです。しかし、日本の子どもたちは、諸外国に比べて「自己肯定感が低く、依存型の傾向」にあります。本活動では、動物の目線を通してみる人間、自然環境からみた人間など、他者の立場を理解し、多面的に考えていきます。こうした活動により次世代の子どもたちのグローバルな視点を育み、自己肯定感を醸成し、持続可能な社会の担い手を育てていきます。
解決したい課題	①対話型学びのメソッドとなる「テーマ、ファシリテーション、コンテクスト教育、システム構築」の探求 ②対話型学びの場となる「学校・動物園・水族館・科学館・環境学習施設」等との連携づくり ③サステナブルデザイン（持続可能な社会づくり）を推進する体制づくり

<p>分科会での活動内容 及び 期待される成果</p> <p>活動①：子どもたちの力を引き出すためのワークスの実施（年度内1回予定）</p> <p>活動②：「動物園 x SDGs」コンテクスト教材づくりのワークスの実施（年度内1～2回予定）</p> <p>活動③：サステナブルデザイン（持続的成長）を推進するためのワークスの実施（年度内1～2回予定）</p> <p>対話型学び手法による「持続可能な社会の担い手づくり」モデルを提示</p> <p>成果</p>	<p>関連するゴール</p>  <p>サステナブルデザインを推進する人材を育成 国境のない視点から人間を見てみる</p>  <p>2020 (10才) 対話スタート</p> <p>2030 (20才) SDGs人財</p> <p>PAGE:47</p>
---	---

地方自治体におけるSDGsモニタリング研究会

2021年度

分科会提案者：国際連合地域開発センター・大日本コンサルタント(株)

新10

分科会の目的	日本の地方自治体がSDGsの達成度や進捗状況をモニタリングする方法とその仕組みの構築を目的としている。
解決したい課題	地方自治体のSDGsへの取り組み状況を市民や関係者を巻き込みその成果をPR・フィードバックするために必要なモニタリングの方法論とその普及展開。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：モニタリング制度の仕組み構築

地方自治体がSDGsに関する自らの取組やその達成状況をモニタリングするために必要なツールとその仕組みを勉強会として議論する。
(年度内5回予定)

活動②：セミナーの開催

上記の議論の結果および開発している仕組みの普及啓発のために公開セミナーを実施する。
(年度内2回予定)

成果

・SDGsモニタリングのための手引きの作成

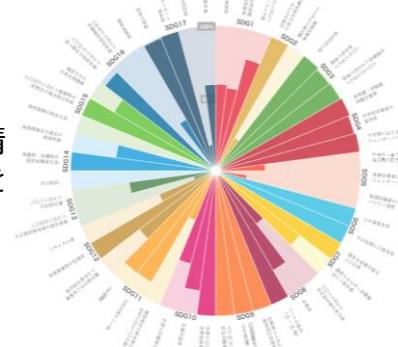
関連する ゴール



モニタリングツールのイメージ

地域のSDGs達成度評価指標
のケーススタディイメージ

日本国内の特徴及び統計事情
を考慮して設定された56指標
を用いて、国内都道府県・市町
村のSDGs達成状況を評価す
る仕組みの構築



ゴールごとの達成度



分科会の目的	世界で最も魅力的な大都市ランキング、コロナ禍で世界1位となった京都。1,200年の歴史を持つ京都の文化・伝統からの学びを通じて、「サステイナビリティ」の源泉となる企業・地域社会の「独自性・個性」の再発掘・再構築すること
解決したい課題	<ol style="list-style-type: none"> 長く続く組織の秘訣とその背景にある哲学・思想・価値観の理解 個々の組織の「社会的存在価値」の再検討と「独自性・個性」の再発掘 メンバー参加型による「新たな日本の在り方」の定義と共同実践

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：サステイナビリティ研究会 in Kyoto

京都老舗経営者による組織の“在り方”勉強会、茶道などの文化人による経営哲学の教えなど
(年度内2~3回予定。Web対応あり)

活動②：SDGs経営シンポジウム in Kyoto

「京都老舗経営者」×「文化人」×「経済研究者」による
サステイナビリティに関わる対談など
(年度内1~2回予定。Web対応あり)

活動③：京都老舗見学ツアー（大人のSDGs修学旅行）

「文化・伝統」×「EC」により新たな需要を発掘する企業
ツアーなど (年度内1回予定。Web対応あり)

成果

・「社会的存在価値」の再検討と再発掘

関連するゴール



当分科会

サステイナビリティ
研究会



シンポジウム



見学ツアー



文化を通じた
事業の再検討

事業
運営

・一番大切にすべき企业文化・強みの再定義

・デザイン思考を取り入れた持続可能なSDGs経営へのシフト

日本のスマートシティを考える

2021年度

分科会提案者：株式会社文化資本創研

新12

分科会の目的	長い時間をかけて育まれてきた地域文化。 産学官連携により、『日本固有の地域財産』×『最新のテクノロジー』を融合した“日本らしい”スマートシティの要素を協議し、具体化を目指す
解決したい課題	・スーパーシティ等の統括的インフラの充実による“場”的豊かさに加え、地域に連綿と続く文化により、より豊かで人間らしい暮らしを実現する“事”的創造 ・文化を視点に地域の在り方・強みを再考し、新しい日本の都市創造への礎とする。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：残すべき地域文化の研究

地域コミュニティが残る集落、転入超過で若者が活躍している地域の秘訣を学ぶ。

(年度内1～2回予定、Web対応あり)

活動②：海外・日本のスマートシティ最先端研究

～スマートシティ構想担当者・都市研究の専門家を招聘して～

(年度内2回予定、Web対応あり)

活動③：あるべき日本のシティの討議

最先端のデザイン経営・テクノロジーのSpecialistにも意見を聞きながら、参加者全員で討議します。

(年度内2回予定、Web対応あり)

成果

循環型社会と地方活性化を融合したモデルシティの創造

関連するゴール



Step.1 知る・見る

地域文化、日本・海外の最新のスマートシティ事例等を勉強する

Step.2 考える

1で得た客観的な知見を自らの問題として落とし込み、何ができるか、何をすべきかを考える

Step.2 創造する

1、2を基に、具体的な形へと昇華させる

GOAL

循環型社会と地方活性化を融合したモデルシティの創造

官民連携によるジビエ振興の推進

2021年度

分科会提案者：一般社団法人未来投資研究所

新13

分科会の目的	ジビエの振興に係る諸課題を整理するとともに、課題解決に資する事業をパイロット的に実施するなどして、持続可能な農村（山林）のあり方を探る。
解決したい課題	ジビエの安定供給に向けての諸課題を踏まえつつ、安定需要（市民（スポーツ選手）への健康面への貢献を含む）、ジビエに対する理解の普及（情報の発信）、地域の振興を図る。

分科会での活動内容 及び 期待される成果	関連するゴール
<p>活動A:ジビエの安定需要「ジビエを日常の食卓へ」 小売業者等による一般家庭への流通ルートの試行実験と、全国チェーンのレストランやファストフード店でジビエ協会監修のメニューの提供、ジビエ関連の商品（試作品）の開発などのパイロット事業の実施（年度内数回実施予定）</p> <p>活動B:ジビエと健康「ジビエによる健康への貢献」 ジビエのスポーツ選手の健康に資することへの実証実験（数値化）。（年度内1回予定）</p> <p>活動C:ジビエの認知拡大と地域振興（観光振興）「正しいジビエ情報・知識の普及と地域への貢献」 活動A、Bの課題に係るデータ整理と活動内容の情報発信（SNSを含む） 地域振興につながる事業の整理（隨時）</p> <p style="text-align: center;">成果</p> <ul style="list-style-type: none">・ジビエの食材としての魅力、質の高さに関するエビデンスの確保・日常的な販売、外食ルートのモデルの構築・ジビエのブランド化、地域の振興	<p>関連するゴール</p> <p>捕獲 → 運搬 → 処理 → 加工 → 提供 → 消費</p> <p>反映</p> <p>フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 成果のとりまとめ➢ 広報➢ 政策提言

分科会の目的	企業の事業にSDGsがもたらす影響を学び、持続可能性を企業の戦略の中心にとらえるためのツールと知識を実践すること。それにより（企業イメージの向上・社会の課題への対応・生存戦略になる・新たな事業機会の創出）
解決したい課題	自社や自分で出来ることを見出し、解決方法を話し合い、誰にひとり取り残さない活動を実践する。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：実施内容：中小企業家同志がSDGsを話し合い、問題を見つけ、対策を考える（国内～グローバルまで）

（年度内4回予定）

活動②：モデル企業における具体的な案件や自社の取組み紹介

（年度内4回予定）

活動③：取組み企業の進捗と効果を検証×

（年度内4回予定）

全12回

成果

- ・中小企業経営者のSDGsに対する意識上げ
- ・今後の顧客ニーズへの対応ができること

関連するゴール



次世代の
産業づくり

③取組み企業の進捗発表

②企業で出来る取組み

①企業間勉強・自社の問題点



中小企業の問題に応じて対策を考えます。

分科会の目的	ウイズ&ポストコロナ社会で安心の社会保障を維持するために、未病という心身状態の啓発を行い、未病リテラシーの向上と未病産業振興の呼びかけをおこない国民皆保険制度の維持に貢献したい。
解決したい課題	「次世代にツケを廻さない健康維持」としての未病ケアの啓発を行い、少子超高齢社会が進む中「高齢者に優しい社会の実現」を課題とする。

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：未病サポーターの養成（e-ラーニング講座開催中）

**活動②：21世紀医療課題委員会の開催。
未病総研Labミーティングの開催
(年度内2回予定)**

活動③ 未病学術雑誌「未病と抗老化」発行（年度内1回予定）

活動④ 未病総研ブランド表彰

成果

安心の高齢社会、「未病de 100歳プロジェクト」につなげたい。

関連するゴール



分科会の目的	地方自治体の「コトづくり・モノづくり・場おこし」による地方活性化・雇用創出のあり方を目的とする
解決したい課題	具体的な指標にあり方を検討すると同時に、その現状を把握し、進捗、目標を住民、職員、観光関連団体、観光関連事業者、商工業事業者、農林畜産水産業間で共有するための手法の検討

分科会での活動内容 及び 期待される成果

- 活動①**地域ネットワークづくりと人材育成
エリア・アイデンティティと地域ブランドづくり・ネットワークづくり（年度内1～2回予定）
- 活動②**今ある地域資源・観光資源の可能性
(自然景観、歴史、人材、産業、生活文化、特産物、特産品など)（年度内1～2回予定）
- 活動③**観光商品、観光特産の立案、商品・サービス開発、情報発信・発信物の作成・充実（年度内1～2回●予定）

成果

「コトづくり・モノづくり・場おこし」で地域活性化
雇用創出・地域ブランドの確立
検討報告書作成及び成果報告会の開催

関連するゴール



指標の可視化までのステップ

①受け入れ態勢の充実化
エリア・アイデンティティと地域ブランドづくり・ネットワークづくり



②地域資源の収集・発掘・整理



③商品化システムの構築

特産品・特産物の企画立案、商品・サービス開発・体験学習
販路開拓・地域雇用創出・地域ブランドの確立・情報発信など



地域、観光資源の中には、「モノづくり、コトづくり、場おこし」による発見で、育まれた宝物のような魅力的なものがあります。地域外の視点で発見しSDGsのメガネで覗けば、素晴らしいモノやコトで溢れています。例えば、観光の5資源（自然、生活、歴史、芸術、スポーツ）とか、祭りや文化遺産、特産物などもたくさんの地域に眠っています。生活者マーケティングの観点から経済的に創出できる価値を見る化していくことで、想定される費用をかける意義が理解いただけると思います。

大学生と考える「消費者市民社会の実現に向けて私たちは何ができるか？」

2021年度

分科会提案者：有限会社ダブル・ワークス

新17

分科会の目的	「消費者市民社会の実現」に向けて、両輪である生産者と消費者、そして行政等が、未来の地球や社会に対してそれぞれができることについて、大学生と共に楽しく一緒に議論を深め、それを行動につなげていくことを目指します。
解決したい課題	・生産者、消費者、行政それぞれの立場で、地球や社会の未来に対してできることは何か？

分科会での活動内容 及び 期待される成果

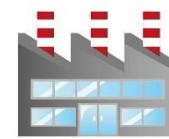
活動①：地球や社会の未来に対して何ができるか？について、企業、大学生、行政、市民団体等が共に意見交換するための検討会。
(年度内3回予定)

活動②：Web啓発ゲーム「そのときあなたはどうする？」で遊びながら、自らの消費行動について「選択のジレンマ問題」を考えるゲーム大会。
(年度内1回予定)

成果

- ・産官学地域それぞれが地球や社会の未来に対して責任ある行動について考える
- ・生産者と消費者が相互理解を深める

関連するゴール



生産者



消費者



大学生

活動①

- ・お互いのことを理解する
- ・地球や社会の未来にそれぞれの立場でできることを具体的に検討する

活動①

- ・Webゲーム「そのときあなたはどうする？」で、各人が経験したことがあるであろう「選択のジレンマ問題」とその背景を考える

消費者市民社会の実現に向けてそれぞれが具体的な行動を宣言

分科会の目的	「誰一人取り残さない社会」の実現に向け、各領域の実践者と専門家が集い、議論し、繋がる場づくりを通し、ICT・AIの活用のあり方を再定義すると共に、具体的な取り組みの後押しを行う
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none">・ICT・AIの導入が、持続可能な社会・仕組みづくりに寄与せず、一過性のものに止まるケースが多い問題を解決したい・SDGs×ICT領域で、ユニークかつ先進的な取り組みを行い、知見を持つ実践者・専門家が繋がる場が乏しい問題を解決したい

分科会での活動内容 及び 期待される成果

活動①：Future Lab. Online

座談会形式のオンラインイベント
(隔月開催・年度内3回予定)

活動②：Future Lab. Networking

参加者同士のネットワーキングイベント
(年度内1回予定)

活動③：Future Lab. Report

上記イベントの実施を踏まえた報告書の作成 (年度内1回予定)

成果

・Future Lab. Report (実施報告書)

関連するゴール



課題解決のためのアプローチ



①Future Lab. Online
毎回テーマを決め、各分野の専門家・実践者をゲストに迎えて実施する座談会



「誰一人取り残さない社会」
実現のための
ICT・AIのあり方とは？



②Future Lab. Networking
参加者同士の交流、
連携を促進するネットワーキング・イベント



③Future Lab. Report

